平成29年12月 浪江町議会定例会で

※一部抜粋

最から行政部署を

関復還 関する取組と困難区域の 4 0

画案を策定し、国に計画認定の申請をく、特定復興再生拠点区域復興再生計 しました。 改正 福島復興再生特別措置法に基づ

ものです。 除染およびインフラ復旧・整備を行い、 区の帰還困難区域内に復興拠点を設け 5年後を目途に避難指示解除を目指す この計画は、 苅野、 大堀、 津島各地

取組みを進めてまいり向けた第一歩として、 帰還困難区域全体の避難指示解除に 着実かつ迅速に

の住宅整備



復興まちづくりに

の入居が決定しています。

を行い、高齢者向け住居7戸を除き、幾世橋集合住宅の残室分の入居抽選会 宅については、 入居が決定したところです。 また、 .が入居を開始しています。 幾世橋住宅団地第2期 9月に完成した幾世 始しています。11月10日・11月末現在で80戸中38 工事分と

ても、 世橋住宅団地第2期工事の6戸につい入居できるよう手続を進めており、幾天居できるよう手続を進めており、幾 けた住環境の確保に努めてまいります 引き続き工事を進め、 帰還に向

波被災地の復興

め、面積比で92・7%の契約状況となっの買取りについては、契約手続中を含 ています。 防災集団移転促進事業による宅地等

ては、 付けています。 7区画の工事が完了し、 また、 分譲地整備につ 移転先住宅団地の整備につ 0、申込みを受けっいて幾世橋地区

に基づ 請戸地区16区画については造成設計 き、 用地取得を進めています。

17 2 整備の 村なみえ」

憩所や滞在施設、一時帰宅をされ や滞在施設、また、时帰宅をされる町日 、町に来訪される民と事業者のは る休

るな り ま

橋住宅団地第1期工事分は、全22戸へ団地については、6月に完成した幾世幾世橋地区に整備を進めてきた町営

福島県との共催により、

避難訓練を実施しました。 市の安達高校を避難所に設定した広域 域スポーツセンターに集合し、二本松 民の皆さまに参加いただき、浪江町地 訓練では、 町内に居住する64名の 町

改善に努めてまいります。万が一に備えた態勢を構築できるよう、 今回の訓練の検証を行い、

安全・安心について町内の



分列行進・閲団などが行われました。し、功績章8名、精勤章18名の表彰や式が開催され、135名の団員が参集ターにおいて、浪江町消防団秋季検閲 が再開しています。 の夜警活動が、少しず /一において、 10月1日、浪 また、 a動が、少しずつではあります 震災前に実施していた町内で 浪江町地域スポ -ツセン

防火防災体制の再構築に向け、 動の一層の支援に努めてまいり 引き続き、町民の皆さまが安心できる 消防団活 (ます。

福 副練原] 子

り

*う*ました。

のような賑わいあふれるイベントとな

き、

町内で十日市を開催していた当時口間で3万人の方にご来場いただ

原子力防災訓練を実施しました。10月28日、福島県との共催に

ベントを積極的に実施してまいります。

た町と町民の絆が深まるよう、

町内

引き続き、町民が集い、

町民同士、

ま

今後も、

除町染内 インフラ復旧



飲

5 11 る る

積極的に取り組んでまいります 引き続き、 住民の帰還促進の ため

道 災害復旧事業と路橋りょう等

います 災害復旧工事を発注 月末現在で、 元注し、工事を進めて町道等14路線19件の

いりょ 今後も橋り 生活インフラの回復に努めてま後も橋りょうや町道の災害復旧を

ついて産業再興への取組みに

町 への支援への支援



ています。また 円開・新規合い また 新規合われ 、事業再開等の相談件数は85。また、再開には至っており規合わせて、76事業所となっ現在の町内での事業者数は、

ませんが、 した事業所に対し、電気料金や上・援を行っていくとともに、町内で再 件となっています。 町としましては、事業再開の相談支 下開

> ど、 ど、事業再開支援を実施してまい水道料金などの光熱水費を補助す

企用 業の 誘場 致の の創 取出 み

施設計・造成に事が、地権者への事業、日地整備の基本設計、地権者への事業、日地整備の基本設計、地権者への事業を対象が、北・南産業の基本設計、地権者への事業を対象が、北・南産業

いります また、 早期に進出を希望される企業

を進めて スト構想関連産業の誘致を目指地においても、イノベーション びロボットテストフィ 所として整備を進めている棚塩産業団 さらには、 ます 大規模水素製造拠点およ イノベーション・ ルド -の誘致箇 し整備 コ

としてフォーアールエナジ災後初となる産業団地への誘致活動については、10 立地が決定した事業者との連携、進めているところです。町とし と「工場立地に関する基本協定」を締 来春の操業開始を目指し準備を アップ等を行っていくとと、 -ルエナジー: への進出事業者 町としても、 -株式会社 協力

広報なみえ 2018.1.1

方々の宿泊場所として、 みえの施設整備を行っています。 いこいの村な

進めて 浴室の改修工事を年度内完成に向けて 宅の移築が完了 現在は、 、ます。 か完了し、いこいの村本館やログハウスタイプの仮設住

構築も含め、 早期再開できるよう、 早急に準備を進めてまいきるよう、管理運用面の

り

事内 業イ 1

また、11月12日には、来場いただきました。 10月14日、15日に、なみるを継続的に実施しています。 「浪江音楽祭」を開催し、多くの方にご10月4日、15日に、なみえの秋祭り 町民に親しまれる施設としての取組み らすイベントを定期的に開催するなど、 るしぇの日」とし、 仮設商業施設「まち・なみ・まるし 毎月第2土曜日・ 町に賑わいをもた 日曜日を「ま

振りに町内で「十日市祭」が県主催の 会社との共催事業「地方創造シンポジ 「ふるさとの祭り20 ントと連携した取組みを実施しました。 ウムin浪江」を開催し、 /エスタ2 さらに、 11 月 25 日、 」と同時開催され、 26日には、 まるしぇイベ 日本郵便株式 口 7 年

ります。 3の誘致に向け、話合いを進めてまいに、進出希望のある事業者と第2、第

大規模水素製造拠点

興整備協議会において各種許認可の手調査・設計を鋭意進め、11月29日の復を受けて、棚塩産業団地の用地取得や事業について、8月の当町立地の決定 指して、 続を終えたところです。 が実施する大規模水素製造拠点の整備 に水素エネルギー 東京オリンピッ ·産業技術開発機構 (NEDO) 国立研究開発法人新エネル ク・パ を活用することを目 ラリンピック

提供できるよう 造プラント建設着工までに事業用地を工事に着手し、平成30年半ばの水素製 引き続き、 平成30年3月までに造成 計画的に事業を進め

帰 還促進·事業再開 てまいります。

より町内再開事業者や町民双方の帰還町内での需要喚起・地域経済活性化に

超え、 150 より販売しているプレミアム付商品券促進に資することを目的とし、7月1日 については、購入者は1,473人とな 11月4日時点の販売額は8千万円を 51億2千万円に達しています。50%のプレミア率を含めた額は、

の周知を進めてまいります。更なる地域経済活性化のため、 事業

一農再開

業再生プログラムを策定しました。 再生協議会において、第二次浪江町農 9月27日に開催した浪江町地域農業 本プログラムでは、

げています 再生への取組みを踏まえ、今年度より本プログラムでは、これまでの農業 3か年で実施する農業施策や目標を掲

営改善審査会を震災後初めて開催しま 経営計画の審査を行う浪江町農業者経また、10月30日には、認定農業者の した。 10月30日には、

者の方から、制震災以降は、 幅に減少しています。 13名にとどまり、 認定を含めても、 的で再認定の申請がある都度、 よる決議を行っていました。 今後、 の申請がある都度、書面に、制度資金の利用などの目は、認定が切れた認定農業 震災前の91名から大現在の認定農業者は この度の

ます。 よう 農業再生施策を推進してまい 認定農業者の増加につながる り

さらに、 11 月 13 日、 14日には、 酒田

> 開催しました。 営農に向けた地域での座談会を初めて 西台の3地区において、 今後の

るためのモデル事業として、地域住民おいては、営農再開ビジョンを策定す格的な水利の復旧が見込まれる地区に地の保全が主でしたが、来年度から本 までの町内での農業活動は、 農

がどこでどのような営農をするのかを営農の将来像であり、具体的には、誰 取りまとめるものです の皆さまとの話合いを進めています。 営農再開ビジョンとは、 体的には、誰での地域の

開に向け尽力してまいります。 方々とともに、浪江町全体での営農再 っシェンを策定する予定で、農業者の 来年度は、 農事復興組合が設立され

イベント



稲田大学、 当日はあいにくの雨となり、業体験イベント」に参加しまし 県内外の学生約50名が「浪江町 目 新潟大学の学生を中心に、 福島大学 東京大学、 した。 予定 早

> 江町に新規就農者を呼び込めるか」た手作りの弁当を食べ、「どうすれば 学 が、 ショップを行いました。 テーマに、地元農家の方々 の新米を始め、 ていた稲刈りは実施できませんでした した後、 ほ場の様子や乾燥機の仕組みを見 始め、浪江町産の食材を使っ 今年収穫したばかりの浪江 「どうすれば浪

町の農業再生に取り組んでまいり その中で出た意見も踏まえ、 今後の ます

向けて 再開

魚介類の集出荷作業時に、 げるようになります。 これにより、 仮設集荷所の設置工事を行っています 復旧工事中の請戸漁港では、 **|荷作業時に、雨風がしの試験操業で水揚げされた** 現在、

ど、 注や、 水産加工団地造成工事の準備をするな を進めているところです。 設整備基本計画」 備を検討する上で基本となる このほかに、 浪江町の水産業の再生に向け準備 請戸漁港荷捌き場などの建設、加基本計画」の策定業務委託の発 泉田川鮭ふ化施設の整 「ふ化施

秋の農

います。11

加いこ。 1月末現在で、233人) 1月末現在で、233人) 接診結果

極的に取り組んでまいります。

にご参加いただいています。

引き続き、

町民の健康維持増進に積

診結果の返却会を実施し、「健診な福祉事務所等にご協力をいただき、

4 帯、2,808名の入居が決定し、いては、11月1日現在で1,60. しています。 88世帯、

生活支援について

復興公営住宅の空き住戸について、から、相双およびいわき地区の一部また、県は11月20日開始の定期募 避の

応 急仮設住宅

11月20日現在の仮設住宅の入居状況

入居率は14・3%となっています。数が350戸、入居者数は6014は、供与戸数2,445戸に対し入I 入居者数は601名、 し入居 が、

町民の健康管理

援 宅確保の見通しを立てられずにいる方 に対しては、 仮設住宅の集約を進めるとともに、 の安全・安心を確保するため、今後も、 て少数となっておりますので、 各仮設住宅における入居者数が極め を続けてまい できる限り懇切丁寧な支 ります。 入居者 住

総合健診

住宅

健

ては、11月1日現在で1,604世町外の復興公営住宅の入居状況につ 2,613名が入居を開始 4 世

> 戸がある団地全てに、 ても募集対象としたところであります難指示が解除された区域の住民につい に対して求めてまいります。 町民が応募できるよう、 中通りや会津地方も含めた空き住 入居意向のある 引き続き、 県

償支援

年度から請求支援を実施しています。 希望された442世帯に対し、平成27 96世帯を対象に、 75歳以上の単身世帯など、 意向調査で支援を 高齢者 9

て11月7日までのうち22日間、総合健ンターを皮切りに リー

切りに、県内10地区においより浪江町地域スポーツセ

れました。

また、

月

25日までの 相双保健

うち18日間

福島県医師会、 「から 12

4世帯となっており、出のあった世帯は、9 今後も引き続き、対象者への支援を損害の解消に努めているところです。 方々に対して訪問支援を行い、 このうち、 実際に訪問支援希望の申 9月末現在で18 これらの世帯 未請求 Ó

継続し、 いります。 未請求損害の解消に努めて ま

A \mathbf{D} R 集団 一申立て

案の内容で、高齢者1名に係る和解契し、平成26年3月20日に提示した和解9月20日、仲介委員が東京電力に対 し、9月成20 約書の調印を求めました。

じないとの方針を示したことから、協の内容でなければ、個別の和解には応否し、町としても、この和解案どおり しかしながら、東京電力はこれを拒

> ご説明の機会を設けさせていただきた 委員の対応を注視しているところであ したがいまして、現在、・議が決裂の状態にあります。 いと考えています。 状況によっては、改めてご報告、 今後の仲介

教育行政について

育て支援

日に落成式を行いました。 にじいろこども園」が完成し 町立幼保連携型認定こども 園 9 月 浪 29 江 浪

ところ、 の利用をいただいています 11月から一時預かり保育を開始した 11月末までに延べ33名の子供

です。 に向け、 今月からは平成30年4 園児の募集を開始したところ 月の本格開園

を含む15点を選定いたしました。には、71作品の応募があり、最優の表彰式を開催しました。コンテ なる「こどもの笑顔フォトコンテスト」また、10月2日に、通算で7回目と コンテス・ 最優秀賞

者の家族など8組が出席し、 念品を贈呈いたしました。 本庁舎で行われた表彰式には、 賞状と記 受賞

広報なみえ 2018.1.1

を



受賞しました。 あった県内217校の中から学校賞を よう こどもたちの夢プロジェクト」で 福島民報社主催コンクール 津島小学校が、応募が 「かなえ

賞に結びつきました。 標を掲げており、日頃の学校生活が受 生き生きと学ぶ子ども」という重点目 両校では「なりたい自分に向かって

しました。 で町長杯グラウンドゴルフ大会を開催 10月26日には幾世橋小学校グラウンド ボール場で町長杯ゲートボール大会、 ターで町長杯家庭婦人バレーボール大 10月14日に浪江町地域スポーツセン フ場で町長杯秋季パークゴルフ大会、 10月7日に二本松市日山パークゴル 10月21日に二本松市郭内ゲート

11月19日には第29回市町村対抗福島

をおさめました。 で多くの方が声援を送る中、総合2位、 県縦断駅伝競走大会が開催され、沿道 の部9位入賞というすばらしい成績

りを改めて感じるものとなりました。 団体が参加し、地域で受け継がれてきた との祭り2017」が開催されました。 開催で、浜通りを中心とした県内外の 伝統芸能を披露し、ふるさととのつなが 土芸術保存会、室原郷土芸能保存会の6 会、標葉神社浦安の舞保存会、南津島郷 能保存会、浪江町相馬流れ山踊り保存 民俗芸能継承団体が一堂に会し「ふるさ 浪江町からは大堀芸能保存会、川添芸 11月25日、26日には十日市祭と同時

その他

江式江町お町 『功労者表彰式『名誉町民顕彰

医師会長などの要職を歴任され、 原中勝征氏は、茨城県医師会長、 町功労者表彰式を浪江町地域スポーツ センターにおいて開催しました。 内で浪江町名誉町民顕彰式および浪江 名誉町民顕彰式で称号をお贈りした 11月3日の文化の日、 7年振りに町 日本

> の名誉を著しく高めました。 章されるなど、当町出身者として郷土 も地域医療の発展に尽力されています。 これらの功績により旭日重光章を受

ただいています。 ら浪江町民に対し、大変なご支援をい 義援金の寄附などにより、 材料や食料品等の多くの物資や多額の また、東日本大震災の際には、 物心両面か 医薬

の名誉町民となりました。 松浦京様、原田直之様に続き、 今回の称号贈呈により、荒義尚様、 4人目

功績を讃えたところであります。 さまに賞状および記念品を贈呈し、 名、功労表彰5名、善行表彰12名の皆 た方々に対しまして、特別功労表彰7 浪江町民に心温まるご支援をくださっ に尽力いただいた方々や全国各地から 様々な分野において活躍され町の発展 また、 功労者表彰式においては、

オリジナルフレーム 切手の発行

手シート3種類「故郷」、「継承」、「再ことを目的に、オリジナルフレーム切 般販売を開始しました。 からの引渡式を行い、11月8日から一 製作し、10月23日に日本郵便株式会社 建」を各1,000部、計3,000部を 浪江に来ていただくきっかけをつくる 町では、多くの方々が浪江を知り、

> 売しています。 ており、11月末現在で1,871部を販

248回衆議院議員

務執行に努めました。 からその後の開票まで、 投票を始め、不在者投票、投票日当日 われました当選挙においては、 10月10日公示、10月22日投開票で行 適正な選挙事 期日前

に行い、さらに、仮設住宅から投票所 と同時に、避難先の市区町村で投票が 投票所の場所や受付時間の周知を図る が、当日有権者は1万5,789名で、 機会の確保と投票率向上に努めました。 までを結ぶバスを運行するなど、投票 できる不在者投票制度の周知を重点的 また、選挙公報を全有権者に発送し、 所、当日投票所7か所を設置しました。 今回の選挙では、 小選挙区選出議員選挙の結果です 期日前投票所4か

6割を占めており、選挙のお知らせ等 者数および不在者投票者数が全体の約 す重要になるものと思います。 による事前の情報提供が、今後ますま 今回の選挙においても、 期日前投票

73ポイント上昇しました。98%、前回の投票率4・25

前回の投票率4・25%に比べ2

投票者数は7,417名、

投票率は46

投票率の向上に取り組んでまいります。 への周知・啓発、投票機会の確保に努め、 今後も引き続き、なお一層の有権者

販売開始以降、大変好評をいただい